

式 辞

中庭の桜のつぼみが膨らみ始め、北部中学校にも春の息吹が感じられる頃となりました。
本日ここに、ご来賓の皆様のご臨席、そして保護者の皆様のご参列のもと、氷見市立北部中学校第五十一回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に喜ばしく、皆様のご臨席に対し心より御礼申し上げます。

さて、一〇四名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
卒業証書を手にした今、皆さんの脳裏には、どのような景色が見えていますか。

実は、私は皆さんに謝らなければならないことがあります。
それは今から二年前、皆さんの合唱練習の様子を見て、
「あー、この学年は歌うことが苦手な学年かもしれない」と感じたことです。
実際、一年生の頃の皆さんは、歌うことに遠慮がちで、なかなか大きな声で自分を表現することができませんでした。

しかし、リーダーを中心にどうすればよい合唱を創り上げられるかを考え、学年が上がるにつれて素晴らしい歌声を響かせるようになりました。そして、三年の合唱コンクールでは、芸術文化館に響き渡る感動的な合唱を歌い上げました。

また、五十周年式典において、ホール全体が一つになった校歌斉唱は、間違いなく三年生の皆さんが中心となって響かせた校歌でした。

皆さんの歌う力を小さく評価していたことを、申し訳なく思うと同時に、中学校三年間の成長の大きさを改めて実感しているところです。

皆さんは合唱だけではなく、その他の活動においても素晴らしい成長を見せてくれました。
運動会では、メインキャラクターをテーマに、一人一人が輝く運動会を作り上げ、北中生の団結力を力強く表現しました。

部活動では、自分たちの目標に向かって努力を重ね、女子ソフトテニス部団体や卓球、柔道、体操個人において北信越大会出場を果たしました。

また、吹奏楽部が金賞に輝いたコンクールでは、演奏曲「いつも風 めぐりあう空」のタイトルのような、さわやかな風を会場で感じることができました。

一方で、心と身体が急激に成長する中学生の時期にあって、心のバランスを失い、悩み、苦しみ、不安な日々を過ごしていた人がいたことを私は知っています。人には言えない苦しみから、涙を流した日もあったことでしょう。

しかし、その苦しい時期も、皆さんがこれからさらに成長するための大切な準備期間と捉えてください。

苦しんだ数だけ、心は確実に強くなっています。

悲しんだ数だけ、人に優しくなっています。

新型コロナも能登半島地震も乗り越えてきた皆さんです。氷見北部で経験したその全てを誇りに、胸を張ってこれからの道を歩んでください。

皆さんがこれから歩む社会は、グローバル化や AI などの進化により、大きく変化していくと思われます。また、大規模な自然災害や戦争がいつ起こるかわからない不安な時代でもあります。

そんな予測が難しい時代をたくましく生きていくためには何が必要か、それは、受け身になることなく、新しいことに挑む心だと思います。

「挑戦こそ成長」です。変わりゆく世の中だからこそ、自分自身も新しく変化しようとする心、挑戦する心を忘れず、一人一人が主人公となって、たくましく生き抜いていってください。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

保護者の皆様にとって、この三年間は決して平坦な道のりではなかったかもしれません。勉強や部活動、人間関係の悩み、さまざまな壁に直面しながらも、ご家庭での温かい支えが、子どもたちにとって大きな力になったことと思います。

この先、それぞれの進路に進み、新たな挑戦が待っていますが、これまで同様、時には優しく、時には厳しく、お子様の頑張りを見守っていただければと存じます。

また、これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

結びに、先日アメリカメジャーリーグで殿堂入りを果たしたイチローさんは、受賞後の記者会見において

「一票足りないのはすごくよかった。人っていろんなことが足りないもの。

それを自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生」と語っていました。

卒業生の皆さんも、自分なりの完璧を追い求め、これから輝く人生を歩んでいくことを願い、式辞といたします。

令和七年三月十三日

氷見市立北部中学校長 櫻 打 佳 浩